

2022年6月27日

SOMPOホールディングス株式会社

SOMPOケア株式会社

モーショントレーニングツールTANOの体力測定メニュー「TANOCHECK」開発に 「Future Care Lab in Japan」が協力

SOMPOホールディングス株式会社（東京都新宿区／グループCEO取締役代表執行役会長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）とSOMPOケア株式会社（東京都品川区／代表取締役社長：鷲見 隆充、以下「SOMPOケア」）は、2019年2月に「人間」と「テクノロジー」の共生による新しい介護のあり方を創造するプロジェクト「Future Care Lab in Japan」を始動し、開設した研究所（以下、「ラボ」）において国内外の最新テクノロジーの実証などを行っています。このたびラボは、TANOTECH株式会社（神奈川県平塚市／代表取締役 三田村 勉、以下、「TANOTECH」）が製造・販売するモーショントレーニングツールTANO（以下、「TANO」）の体力測定メニュー「TANOCHECK」の開発に協力し、完成した商品が本日、販売開始になりましたのでお知らせします。

1. 背景・目的

現在、介護現場の業務効率化・省力化を目的に、ICTや介護ロボットなどのテクノロジーを駆使した技術の開発が進み、活用も広がりつつあります。

ラボでは、2020年度から厚生労働省が推進する「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」のリビングラボネットワーク※に参画し、開発企業からの各種相談への対応、介護ロボットの製品評価・効果検証、介護現場での実証支援を行ってきました。

TANOが保有する要素技術を踏まえ、ラボよりSOMPOケアの介護施設で実施している体力測定業務への活用を提案し、TANOTECHと意見交換を重ね、2021年4月から体力測定メニューTANOCHECKに開発に向けた協力体制を敷き、開発・実証に取り組むことになりました。従来は5名程度で行っていた介護施設の体力測定を「TANOCHECK」を活用することでスタッフ1名で手軽にできるようになることで、介護施設の業務負荷軽減が可能になります。

※「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」および「リビングラボ」とは

地域における相談窓口の設置、介護ロボットの評価・効果検証を実施するリビングラボ（開発の促進機関）を含む関係機関のネットワークの形成、実証フィールドの整備などを行うことで、全国版プラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・実証・普及の流れを加速化することを目指しています。リビングラボは、実際の生活空間を再現し、利用者参加の下で新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための機関です。これらの全国8か所のリビングラボは本事業を通じてネットワークを構築し、それぞれの強みを生かしながら開発企業をサポートするものです。

（引用元：<https://www.kaigo-pf.com/>）

2. 概要

(1) モーショントレーニングツール「TANO」について

TANOは、福祉・介護・教育現場向けの「非接触・非装着・非対面型モーショントレーニングシステム」で、センサーの前に立つだけで体がコントローラーとなり、150種類以上の運動・発声・脳活性化プログラムを非接触・非装着・非対面で楽しくトレーニングすることが可能です。

モーションセンサーを利用し骨格データを読み取り、体をコントローラー代わりにして直感的に運動・レクリエーション・発声・測定を行う事ができるソフトウェアです。

商品についてはこちらからご確認ください。

<https://tanotech.jp/tano>



(2) 体力測定メニュー「TANOCHECK」について

TANOCHECKはTANOでも使われているセンサー技術を用いて全身の骨格を判断し、体力測定メニューの5m歩行とCS30（30秒立ち上がり）の測定を自動的に行うことが可能です。スタッフが直接測定・記入する必要はありません。握力・空間認識力の項目についても、測定後に数値を直接登録でき、片足立ちではストップウォッチ機能によりスムーズに計測できます。一人一人IDでログインすることで、個人ごとのデータ蓄積が可能になります。前回の測定からの変化が分かり易くなり、データの入力間違いも防ぐことができます。

3. 実証について

SOMPOケアでは2015年から約150か所の介護施設と、約30か所のデイサービスで3ヵ月1度体力テストのような方法で、体力測定を実施していました。しかし、各測定項目ごとに機器配置や職員が必要、準備、安全管理、測定、記録と手順多い、データ記入ミスが出る、コロナウイルスの影響で継続できないといった課題が出ていました。TANOを活用することでこれまでアナログで行っていた計測を自動化、簡素化し、介護職員が一人でも体力測定が行えるようにラボや介護現場での実測とTANOTECHでの改良を繰り返しました。

FCL：機能の要件定義、動作・精度検証、介護現場での利用を想定した実証評価

SOMPOケア：実介護現場での介護職員・施設入居者が機器を使用した実証評価



3. 今後について

Future Care Lab in Japanでは、多くの介護現場で活用できるテクノロジーの実証評価・開発・改良を進めていくとともに、導入後のテクノロジーにおいても、本事例のようにご利用者や現場職員の声を反映させた製品開発や改良を行っていきます。今後も社会課題の解決に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきます。

【参考情報】

「Future Care Lab in Japan」

設立 2019年2月

所在地 東京都品川区東品川4-13-14 グラスキューブ品川10階

ミッション 「人間」と「テクノロジー」の共生による新しい介護のあり方を創造し、加速する超高齢化に伴う課題の解決を通じて、高齢者が自立し尊厳をもって暮らす持続可能な社会の実現と高い付加価値と生産性を備えた持続可能な介護事業モデルの構築に寄与していきます。

URL <https://futurecarelab.com/>

「TANOTECH 株式会社」

設立 2018年6月

代表者 代表取締役 三田村 勉

本社所在地 神奈川県平塚市宮の前1-4 パーレン平塚ビル5F

事業内容 TANOの開発・国内外代理店。

URL <https://tanotech.jp/>

以上